

宮城県医師連盟執行委員会開催（令和3年9月8日）



宮城県医師連盟委員長
佐藤 和宏

緊急事態宣言の下、テレビ会議で開催

宮城県医師連盟は、令和3年9月8日（水）午後6時30分より執行委員会を開催した。今回は、コロナ感染症における緊急事態宣言の最中ということもあり、初めてテレビ会議により開催された。

議事では、「令和2年収支決算」「令和4年会費賦課」「郡市医師会への助成金」について審議を行い全会一致で承認、また、「第49回衆議院議員選挙」や「宮城県知事選挙」、来年実施される「参議院議員通常選挙」について活発な討議がなされ、宮城県医師連盟としての対応を決定した。

執行委員会は、奥村常任執行委員の司会で開会、役員・執行委員の出席62名（内WEBによる参加53名）、委任状43名で本委員会が成立することが報告された。

はじめに佐藤和宏委員長から次のように挨拶があった。

委員長挨拶

先生方、ご多忙中のところ、また診療後のお疲れのところ、本会議にご出席いただき誠にありがとうございます。コロナ禍ということもあり、テレビ会議での開催となりましたが、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

すでにご存じのように、自民党の菅総裁は9月3日の自民党臨時役員会で総裁選挙に立候補はしないことを表明しました。その理由は、新型コロナウイルス対策に専念したいとのこ



宮城県医師会館
2階ホールにて



司会をする
奥村秀定常任執行委員



議長をする
佐藤和宏委員長

とですが、コロナ対策に共感を得られず、国民や医療従事者からの信頼を失い、また周囲の国会議員からも、このままでは衆議院議員選挙は戦えないという反発を招き、万策尽きて退場せざるを得なくなったというのが真相ではないでしょうか。そうだとすると、新型コロナウイルス対策に専念したいから、総裁選には立候補しないという理屈は、むなしく聞こえます。また、この間、菅総理のコロナ対策に対して結果的に諫められなかった政府や自民党幹部にも大いなる責任があります。そうした意味で、来るべき総選挙は、自主投票でも仕方ないし個人的には考えました。

しかし、宮城県医師連盟は連盟加盟の先生方の組織でもあります。今回はテレビ会議という連盟の会議では初めての経験でもあり、また政局の最中のことでもあるため、混乱も予想されました。そこであらかじめ、郡市医師連盟の代表の先生方へ、アンケート調査を行いました。選択肢は3つであります。

1つは、今まで通りに自民党を粛々と応援すべきというもの、2つ目は今回は自主投票にすべきというもの、そして3つめは、自民党を応援するが、現在私たち医療従事者はワクチン接種その他で多忙であり、今まで通りの応援はできないといういわば消極的応援であります。これら3つの考えを基に、意見をお聞きしましたが、17表中11票は、消極的応援、3票は自主投票、3票は今まで通りというものでした。

第49回衆議院議員選挙の対応決定 — 本連盟としては自民党を応援 —

第49回衆議院議員選挙について、前もって各郡市医師連盟委員長に意向を確認した結果を踏まえ、来るべき衆議院議員選挙について討議を行った。

草刈千賀志副委員長（仙台市）から「現政権のコロナ対策はいろいろ問題があったと思うが、それ以外にも政治家の政治とカネの問題など、国民を甘く見ていると感じる部分がある」とし、この現状では自主投票もやむを得ないのではないかと意見があった。また、森田潔副委員長（気仙沼市）からは「日本医師連盟と政権与党執行部と現在どんな関係にあるのかわかる範囲で教えていただきたい」との現状確認があり、佐藤和宏委員長からは、「日医連は、政権与党である自民党を推薦している。日医連と自民党執行部の関係は悪くないと感じている」との見解が示された。

また、丹野尚昭副委員長（名取市）からは「世論調査をしても、自民が伸び、立憲民主は伸びない。立憲民主や野党がコロナ対策でどんな提案をしてきたか。ほとんどなかったと思う」と前置きし、「政権与党は支持せざるを得ないと思うが、先生方の意見を佐藤委員長が総括し、自民党に伝え理解していただければ支持するという対応も必要ではないか」との意見があった。

討議の結果、コロナ対策等において、現政権（自民党）に対する不満はあるものの、やはり、日本医師会の理念と政策の実現のためには、政権与党を推す必要があるとの認識で一致、宮城県医師連盟としては、日医連同様、政権与党である自由民主党を応援することとなった。ただし、各郡市医師連盟においては、各々の判断で当該選挙に対する対応を決定することが確認された。

なお、自民党候補者を推薦する場合、本連盟としての要望をしっかりと伝えること、また、日医連から要請されている日医連として推薦する候補者については、各選挙区内の郡市医師連盟に意向を確認して対応することが確認された。



草刈千賀志副委員長
（仙台市）



森田潔副委員長
（気仙沼市）



橋本省執行委員



丹野尚昭副委員長
（名取市）

令和 2 年収支決算・令和 4 年負担金基準額承認

【収支決算】

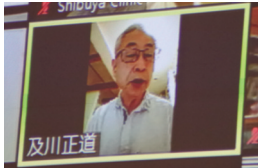
令和 2 年の宮城県医師連盟収支決算について、板橋隆三会計責任者から政治資金規正法第 12 条の規定による令和 2 年分の収支報告は、令和 3 年 3 月 22 日に宮城県選挙管理委員会に提出済みであるとの報告があり、配布資料に基づき収支内容の説明と報告があった（表 1 参照）。

【会費賦課】

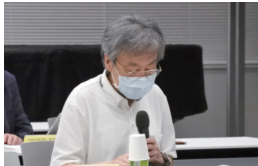
令和 4 年宮城県医師連盟会費賦課について、登米祐也会計責任者職務代行者より、「昨年と同様に年額 3 万 6 千円とさせていただきますので、執行委員の先生方の承認をお願いしたい」と提案があり、令和 4 年の会費は原案通り全会一致で承認された。



板橋隆三会計責任者



及川正道会計監督者



登米祐也
会計責任者職務代行者

令和 2 年宮城県医師連盟収支決算（表 1）		
期間収支計算書（令和 2 年 1 月 1 日～令和 2 年 12 月 31 日）		
収入	会費	23,349,000
	政治団体からの寄付 ※日医連交付金	4,032,000
	その他の収入 ※銀行預金利息等	224,335
	繰越金	23,982,790
	合計	51,588,125
支出	經常経費（A） （人件費、光熱水費、備品費、事務所費）	2,260,224
	組織活動費（B）	3,885,842
	・大会費	1,329,821
	・交際費	1,930,691
	・組織対策費	490,050
	・行事費	135,280
	調査研究費（C）	29,200
	寄付、交付金（D）	13,440,000
	合計（A）+（B）+（C）+（D）	19,615,266
	収入支出差引残 ※令和 3 年へ繰越	31,972,859

宮城県知事選挙

任期満了に伴う宮城県知事選に立候補を表明している村井嘉浩知事について、佐藤和宏委員長より、オリンピックのサッカーの試合で、無観客を要望したのに、有観客で強硬したこと、津波対策の防波堤の高さの問題、美術館の移転問題、水の問題、宿泊税の問題等々、問題はある。しかし、一方でコロナ患者のホテル療養の確保やワクチンの大規模接種会場の設営と運営等の実行力も見逃せない。今一番大事なコロナ対策としては、間違っていないと思うとの話があり討議に入った。

出席委員からは「無条件に推薦したくはない。医師会からの要望（発熱外来などコロナ対応を頑張っている先生に対しての支援）や不満を伝えたい」などの話を聞かない人という印象である。コロナの対応の補助金等の使い方も県によって違いが

自見はなこ後援会活動

佐藤和宏委員長より、日本医師連盟組織内候補である自見はなこ参議院議員の後援会活動について、一時マスコミを騒がせる件もあったが、昨年、日本医師連盟組織内候補として本連盟においても推薦し応援することを決定しているため、引き続きよろしくお願いしたいとの話があった。

川村和久執行委員（仙台市）より、同じ小児科医として委員の先生方にお伝えしたいとして「コロナに係る小児科の診療報酬上の臨

あり、支持するのであればこちらの条件を提示したうえで支持するかどうかが検討すべきである」良かった点はホテル療養のホテルを迅速に確保したこと。水道の問題など、失策もある中で、現時点では対抗馬もいないため条件を付けたうえで推薦するべきではないか」など厳しい意見が相次いで出された。

佐藤和宏委員長は、各郡市医師連盟の委員長を含め執行委員の先生方の意見として「推薦はするがいろいろ批判があるということをしつかりと知事に伝える」と強調した。

現時点で有力な対抗馬もないことなどを考慮し、本連盟としては、要望をしつかりと伝え、村井嘉浩知事を推薦することとなった。



安藤健二郎副委員長
（仙台市）



川村和久執行委員
（仙台市）

時的な取り扱いやこども庁の新設、さらに、子宮頸がんワクチンについても積極的な勧奨の差し控えを外す方向で尽力されている」との報告があり、応援をよろしくお願いしたいとの話があった。本連盟としては、全会一致で自見はなこ参議院議員を引き続き応援していくことが確認された。

その他

森田潔副委員長（気仙沼市）より、政治家のパーティ券については、宮城県医師連盟としても、各区で差が出ないよう購入していただきたいとの要望があった。佐藤和宏委員長より、「東京開催のものは買わないことにしている。今までは国会議員や県議会議員の先生方のパーティ券を買っていた時期もあったが、現在はコロナ禍なのにパーティ券をやるのかという気持ちもあり、買っていない。ただこれは時期的なものであり、基本的には森田先生の言う通りである」との考えが示された。

郡市医師連盟活動助成金

（表 2）

令和 3 年 9 月 3 日

1. 基本額 50,000 円					
郡市連盟名	会員数 R3.1.1 時点	R1 支給額（前回） 一律 100,000 円 会員数 × 1,000 円	(A) 基本額 一律 50,000 円	(B) 会員数 × @ 3,000 円	支給金額 A + B
仙台市医師連盟	294	413,000	50,000	882,000	932,000
白石市医師連盟	16	120,000	50,000	48,000	98,000
柴田郡医師連盟	21	123,000	50,000	63,000	113,000
角田市医師連盟の会	12	115,000	50,000	36,000	86,000
亘理郡医師連盟	15	117,000	50,000	45,000	95,000
岩沼市医師連盟	15	115,000	50,000	45,000	95,000
名取市医師連盟	20	122,000	50,000	60,000	110,000
宮城県塩釜医師連盟	54	154,000	50,000	162,000	212,000
黒川医師連盟	14	116,000	50,000	42,000	92,000
加美郡医師連盟	8	109,000	50,000	24,000	74,000
大崎市医師連盟	51	151,000	50,000	153,000	203,000
遠田郡医師連盟	9	112,000	50,000	27,000	77,000
桃生郡医師連盟	20	124,000	50,000	60,000	110,000
宮城県医師連盟石巻地区	38	138,000	50,000	114,000	164,000
登米市医師連盟	21	123,000	50,000	63,000	113,000
宮城県医師連盟気仙沼地区	17	118,000	50,000	51,000	101,000
宮城県医師連盟栗原市	19	121,000	50,000	57,000	107,000
合 計	644	2,391,000	850,000	1,932,000	2,782,000

郡市医師連盟活動助成金

板橋隆三会計責任者より、配布資料に基づいて説明があり、会員数のバランスを考慮し、各郡市医師連盟一律 5 万円に会員数 × 3 千円を加算した額を各郡市医師連盟に助成するとの提案があり、表 2 のとおり全会一致で了承された。